

晩成社とアイヌの人々とサケ ... 助けてもらい、手助けをした

しもおびひろむら おびひろし にゅうしよく ばんせいしゃ
 下帯広村（帯広市）に入植した晩成社とアイヌの人たちとの、サケやマスを通したかわりを、晩成社幹部（依田勉三・鈴木銃太郎・渡辺勝）による、日記や記録の中から見てみましょう。（やさしいことばに直してあります）

明治15年（1882）、鈴木銃太郎は開拓準備のため、一行より先に帯広で一冬をこします。その時の日記から。

明治15年8月4日

アイヌの子どもに青貝ポン（ポタン）をあげて、白米を5合（約0.9リットル）をあげる。その子が、ゴボウを持ってきてくれる。釣り針、糸などをあげる。彼がまたやってきて、マスのくんせいをくれる。みそをあげる。元小屋のアイヌの女性、マス半身をくれる。米を5合あげる。

10月14日

夜、シモコツといっしょに、トレツ（人名）の家に行く。みやげに大根菜カブを少し持って行く。ここで、ドロブク（にごった酒）と秋ザケをごちそうになる。

帰りにモチャロク（村長の名前）の家に立ち寄り、秋ザケ半身をもらう。

10月19日

早朝、エトラスとアイランゲ（人名）が、それぞれ秋ザケを持ってきてくれた。かわりにアイランゲがほしいといったみそ一椀とソバをかり取ってあげる。

12月4日

昨夜、アイヌのタカサルが泊まっていった。タカサルは、サケ15本を持ってきてくれた。干すための場所をつくる。一椀（ご飯？酒？）ふるまう。（鈴木銃太郎の日記より）

翌、明治16年（1883）春、晩成社の一行がやってきて、本格的な移住が始まります。ところが、晩成社の人間が火事を起こし、アイヌの人たちとの間によくはない空気がただよみます。晩成社の報告書と渡辺勝の日記からです。

明治16年5月11日

開墾のために野に火をつけ、あやまって、アイヌの人の倉庫を燃やしてしまった。（『北海道晩成社第二回報告書』より）

5月15日

アイヌの人たちは、私たちが入地するのを見ると、おそれ多い、先を争ってどこかに去り、ただ村長のモチャロク一家だけがふみとどまっている。（中略）自分たちはアイヌの人を守り、いろいろ教え、いっしょに開拓する

ことを希望するのみだと、村長を通じて伝えてもらった。（渡辺勝の日記より）

何とか、関係は良くなりますが、今度はサケの禁漁が決まります。次も、報告書と勝の日記からです。

11月26日

札幌勤業課の役人が来た。下帯広村（帯広市）に宿泊して、十勝川上流（河口近く以外のこと）でサケをつかまえることを禁じ、また、2人の見張りを置いたので、アイヌの人はもちろんのこと、晩成社の社員まで迷惑している。（『北海道晩成社第二回報告書』より）

明治17年

昨冬、役人からサケをつかまえることを禁じるとの命令があったため、アイヌの人たちはだんだんと食べものがなくなり、飢饉が目の前にせまり、ただ、何もできず死を待つかのようである。（渡辺勝の日記より）

同じ年

大津（の役場）に行き、助けをたのんでも、1戸につき、わずかに8升（約16.4リットル）米で約12kgしかもらえず、往復の料金にしかない。家に着けば、妻は病気になる、子どもは飢え、どうすることもできず、最後は木の皮を食べようになっている。（渡辺勝の日記より）

同じ年

アイヌ民族の村が飢饉である。（中略）応急の救助をして、一方で札幌県に申し立てた。（渡辺勝の日記より）

明治18年2月

アイヌの人は、去年と同じように飢えている。これは、サケをとれないためである。（『北海道晩成社第四回報告書』より）

晩成社の申し立てのためか、さすがにこのままではいけないと思ったのか、札幌県は応急にサケの禁漁をゆるめることになりました。

明治18年12月

アイヌの人は、サケをたくさんとれたため、食べもの不足もなく、大変喜び、落ち着いたようすを見せている。（『北海道晩成社第四回報告書』より）

「帯広百年記念館 博物館講座 晩成社とアイヌの人びと」から

鈴木銃太郎の日記は「十勝開拓の先駆者 鈴木銃太郎日記とその人々（田所武敏著）」より
 渡辺勝の日記は「音更然別の開拓者渡辺勝翁日記抄（三原武彦編）」より

4 晩成社（ばんせいしゃ）：明治16年（1884）、伊豆（いず：静岡県）から下帯広（帯広市）に入植し、開拓を目指した農事会社。
 5 くんせい（燻製）：肉や魚をけむりでいぶし、長持ちするようにしたもの。（かおりや

味をつけるためにもおこなわれる）
 6 飢饉（ききん）：農作物などがあまりに不作なため（この場合はサケの禁漁のため）食べ物が少ない、人々が飢（う）え苦しむこと。

第1章 十勝の平野や川ができるまで
 第2章 先史時代と川
 第3章 アイヌ文化と川
 第4章 十勝開拓と川
 第5章 発展 今、そして未来へ

用語
 さくいん